

「今後ビジネス系大学教育はどのような役割を担い、どのように変革するのだろうか」

長崎県立大学 三戸 浩

○はじめに …学部と研究科の新設の経験から述べてみたい

新しい試み・可能性は今大会の報告でも見えてきた。本報告では、企業が求めている人材像と現在の大学(院)の構造的問題を中心に述べてみたい。

(1) 「文系学部は役に立たない」論の検討

(i) 経済学・経営学・商学・社会学などは役に立たないのか？

⇒書店の棚には数多く並んでいるということは、ニーズがある(「役に立つ」と思われている)ということ

(ii) 例えば「経営学の父 F.W.Taylor」は技師であり、「科学的管理」は「役に立つ」ものではなかったのか？

(iv) 研究成果は「役に立つと認められている」とするなら、「(大学)教育に対する不満がある」ということ

(v) では、なぜ「大学教育は役に立たない」と思われているのか？

(vi) 本当に役に立たないのか？

(2) 「(文系)大学教育は役に立たない論」の検討

(i) (近年の)企業が求めている力を育てていない

⇒要望されているのは「イノベーション能力」か？

(ii) job 型に変わっていないのに、スペシャリスト(専門能力)を求めるようになってきた

(iii) 理系の教育は文系のように役に立たないとは言われていない(ただし、基礎研究・応用研究、すぐに役立つかは別)

(iv) 企業が求めていた人材に合わせた教育をしてきたのではないか？

(3) これまで日本企業が求めてきた人材

(i) 日本企業は「membership 型」であり、特定の job を遂行する能力を求めていなかった！

⇒試験が終われば学んだことを忘れる

(ii) 上司や顧客の望みを読み取り、同僚とのコミュニケーション・協働する力が求められていた

⇒先生が出す問題を予想し、気に入る答案を書く能力が育っていた

体育会系の学生が望まれ、バイトや社会経験を重視され、面接の内容もそれに合わせて

(iii) 新規学卒一括採用で人材を採用し、OJT と Job Rotation で育ててきた

⇒これまで大学は「役に立つ(企業が求める)人材」を供給してきていたが、

それは、ビジネスモデルの大きな変革が無い時代、経済成長が続く時代に合致した人材

(4) これまでの大学における人材教育

(i) 大学の制度設計は、「学士号、修士号、博士号」を授与するために専門科目の積み上げ方式

⇒企業が求めるのは「主体的に考え・動く、イノベティブ人材」

ただし、Job 型雇用には変わってないため、これまでの能力+専門能力

(ii) 企業の求める能力を育てるためには「卒業時(〇〇号授与)」ではなく「卒業後」の観点からの教育

(iii) 現行のアクティブラーニングや PBL などは役に立つのか？

(5) これからの人材教育

(i) 3つの能力(基礎知識・応用能力・学習意欲)のうち、

学習意欲があれば、自ら基礎知識を学ぼうとし、応用しようとするだろう

⇒学習動機、学習意欲、学習姿勢が決定的ではないか？ … 高校の進路(指導)の重要性

(ii) 求められるもの … 専門能力の前に必要なもの

① 社会に対する関心 … マーケティングとイノベーションには必要不可欠

② 他者に対する関心 … 「親しくない人」に対するコミュニケーション

③課題解決のために必要な情報・資料を収集・分析する能力

(6)具体的方策

(i)理系のように、将来の進路・職業・職種をある程度想定(前提)とした学習が2年次からは必要では無いか?

(ii)そのためにも、入学時(高校時代)まで必要な教育が必要であり、

(iii)入試のあり方も検討(調査書の活用の仕方、試験問題)

①高校(以下)との連携 … 大学に求められていることの多くは高校以前の教育問題では無いか?

②文部行政の問題…大学入試でも「公正さ」の観点が強い。「実学」の観点で国語の問題が議事録・規約!?

(iv)ビジネスはトータルなもの・変化するものという視点 … 現在の「ナンバリング」などは?

①講義間のつながりが必要 … 各講義の間での教材(事例)の共有

②理論・用語も重要だが、成功例・失敗例の教育が

③初年次で「原論」により経済全体、市場・企業・ビジネス・マネジメントを学ぶベースを
最終学年で「総論」により、それまで学んできたことの関連性・全体像を確認させる

④ゼミに如何なる役割を期待するか?

⑤卒論と進路との関連性

⑥理系のやりかた(社会的課題を院生・学部生に解決(研究)させる教育、その研究結果を学会発表)を学ぶ

⑦大学院のありかた…社会人はビジネス全体像と専門能力が必要なのではないだろうか?

学部生と一緒に学ばせる

大学院教育こそ「役に立つ」必要があろう(オンラインの普及は追い風)

(7)まとめ

一言で言えば「〇〇号授与」の観点ではなく「(広い)ビジネス課題解決」からの教育への転換が必要
学生と教員と大学経営者の意識転換

(付)一日目の報告を聞いて;

①小山報告;「なぜ、経営学を社会は必要としていない(理解していない)」のか?

企業;大企業;理解・必要としており、学ぼうとしている(その内容は別)

中小企業;「勘と経験(テイラー以前)」で商売しているのだろうが「経験から学ぶ」のは難しい

行政・非営利組織;組織存続の経済的側面を、国家・自治体に依存していた。

自組織特有の役割・機能を果たせばいい(専門家)、組織存続のためにはビジネス(事業)とマネジメント(経営・管理)が必要である、という認識が無かった(法と市場・経済だけ)

②近大の話を聴いて;他の報告と共通している部分

⇒ 教育内容もともかく、大学組織・運営の問題

⇒ 教えられる教員がない(能力もそうだが、自覚がない)

… スタンダードな授業は「共有化」して、PBLにというが、そもそもそのような訓練を受けていない
教員の時間が削られてきている(有能な人に集中)

法人(設置主体、理事会)の認識(特に公立大学は…)

「偏差値」から「ブランド=期待と評判」へ

○こんなことを言ったら、身も蓋もないのだが…

経営学部や経営学関係の学会がどれだけ「経営学」に則った運営をしているか!?

(存続のための学生・会員を確保できているか?「顧客の創造、マーケティングとイノベーション」ができていない。「衛生要因」しか見ず、「動機付け要因」の理解が乏しい)

ESなくしてCSがあるのだろうか?

二日目の報告を聴いて

①意識と制度;個人の意識・姿勢が重要だが、その変革・活性化のために制度を(目的と一体化した人材)

②大組織ではなく、自分でネットワークを作って、そのネットワークを活かして仕事をする

③自校のキャンパスを前提とした(クローズドな)大学の翳り・時代の終焉？

大学の専門知と若いエネルギーと地域・社会課題の結合

学会も大学教員以外のメンバー(職員、企業・行政・NPOなど)を、そのメンバーから新しいコラボを

④情報化とグローバル化の「同時進行・相互性」の理解

⑤5つの「外」

⑥ビジネス系教育の「改革、改善」のためには、大学「改革」が必要では…

参考文献；吉見俊哉『大学は何処へ～未来への設計』岩波新書、『「文系学部廃止」の衝撃』集英社新書